

若年保育者の保育事務の効率化と ICT 活用の可能性

久保田 真規子

永 井 裕紀子

はじめに

筆者らは、2017 年に若年保育者の就労実態に関する調査を実施した。そこでは仕事に遣り甲斐を感じながらも報酬や休暇の取りづらさに加え、保育事務量に対する不満や不安から、保育の仕事を継続することに困難を感じている若年保育者が多く存在することが明らかになった。保育業務の効率化・軽減化への対応として国は ICT 化を推進している。しかしながら、保育における ICT 活用には賛否が並存し、それを検証するためのエビデンスが不十分なこと。また、費用の問題等もあり現場の ICT 整備状況の差は大きいと感じる。筆者らは、保育における ICT の可能性は、保育業務の効率化に限らず今後多方面から検証を行うことが重要と考えている。

本研究では、若年保育者の保育事務量の効率化と ICT 活用の可能性に焦点をおいた調査結果を報告する。

I. 質問紙調査の概要

(1) 調査の目的

保育の仕事における若年保育者の負担感を把握する。

保育の仕事における ICT 活用の可能性について考察する。

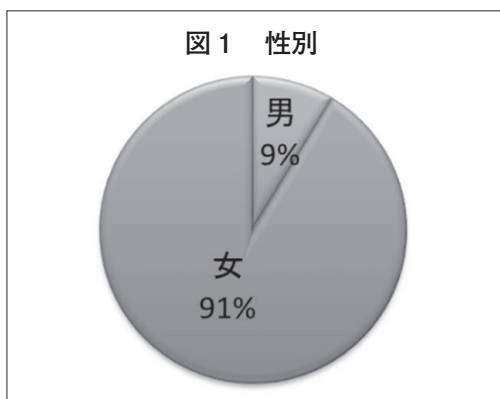
(2) 調査方法

本学卒業生（2014 年～2018 年卒業）400 名を対象に、2018 年 12 月郵送による質問紙調査を実施した。調査は無記名方式とし、設問は選択式および記述式とした。回収率は 17.5%であった。

II. 質問紙調査結果と考察

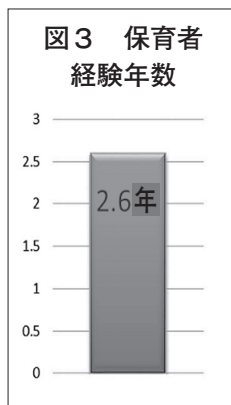
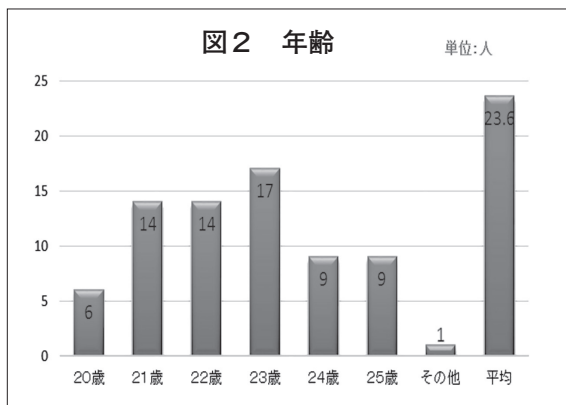
1. 回答者の属性

○性別



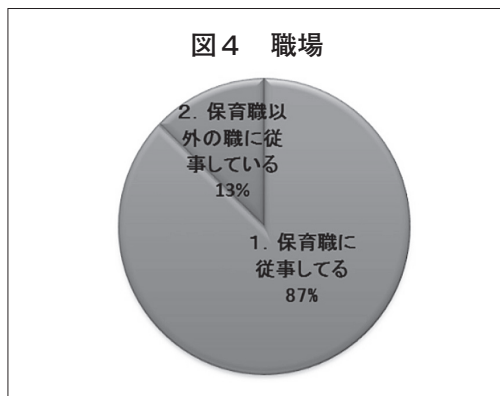
回答者の性別は男性6名、女性64名であった。割合としては、男性9%、女性91%であった。

○年齢



回答者の年齢は23歳が17名と最も多く、次に21歳、22歳の14名であった。短大卒業後3年までの回答者の割合が高い。回答者の平均年齢は23.6歳、現場における保育経験年数の平均は2.6年であった。

○職場



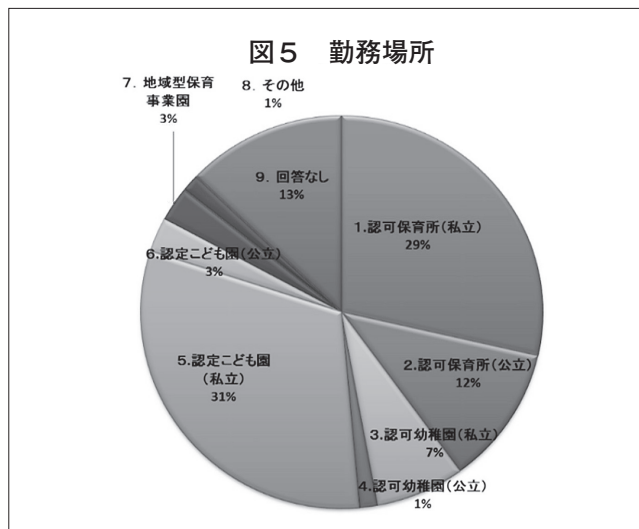
アンケート実施時点での職場について尋ねた。「保育職に従事している」が87%、「それ以外の職に従事している」が13%であった。保育職に従事していない理由を自由記述で求めた結果は以下のとおりである。

< 保育職に従事していない理由 >

- ・ 現在障害者支援施設で働いているため
- ・ 職場環境
- ・ 障害者施設に勤務しているからです
- ・ 障害児支援に興味を持ったため
- ・ 進学したため
- ・ 就労 B で障害者の支援を行っているため
- ・ 障害者の施設に勤めているため
- ・ 勤務時間外にすべき書類書きが多く大変だったから

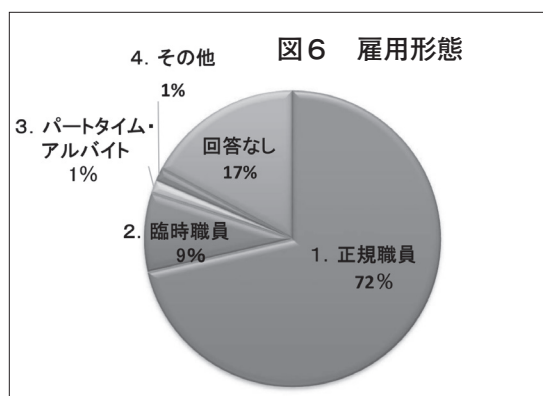
希望する職場が障害者施設であったという理由と、仕事量や職場環境が問題で保育の職を継続できなかったと思われる理由があげられた。

○勤務場所



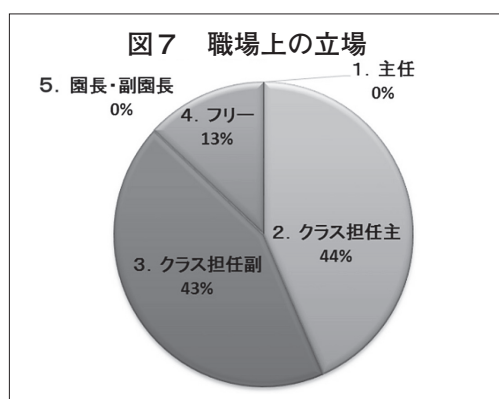
勤務場所は「認定私立こども園」が31%と最も多く、次に「認可私立保育所」29%、「認可公立保育所」12%、「認可私立幼稚園」7%、「認定公立こども園」「地域型保育事業園」が3%と続いた。公私立の設置主体で見ると、公立園が16%、私立園67%となった。

○雇用形態



雇用形態は、正規職員が72%と最も多かった。2017年に行った筆者らの調査は、短大卒業後5年から15年の若年保育者を対象（2003～2012年の本学卒業生）に実施したものである。そこで得られた回答者の平均年齢は28.4歳、保育経験年数は7.7年と、それぞれが今回の調査と比べ5年ほど高かったが、雇用形態については正規職員の割合が今回の調査より5%低かった。このような結果は、年齢や保育経験年数を積むほど非正規職員の割合が高くなることを意味すると考えられる。

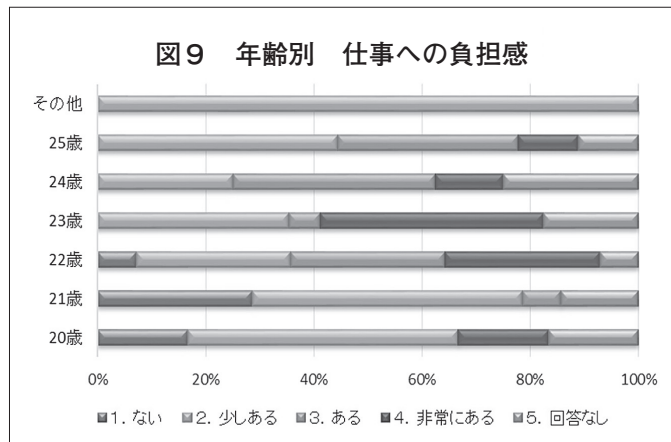
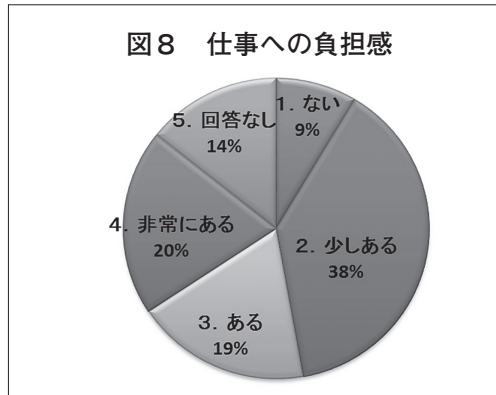
○職場上の立場



クラス主担任44%、クラス副担任43%であり、約9割が担任を任されていることが分かる。

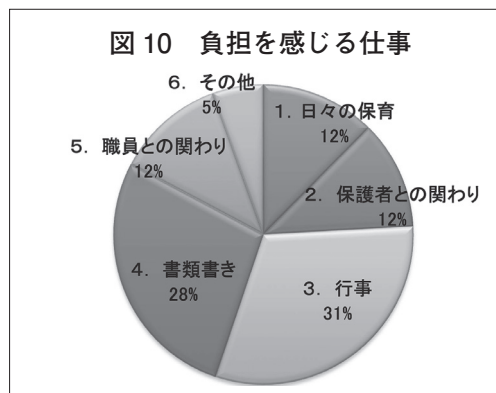
2. 保育の仕事への負担感

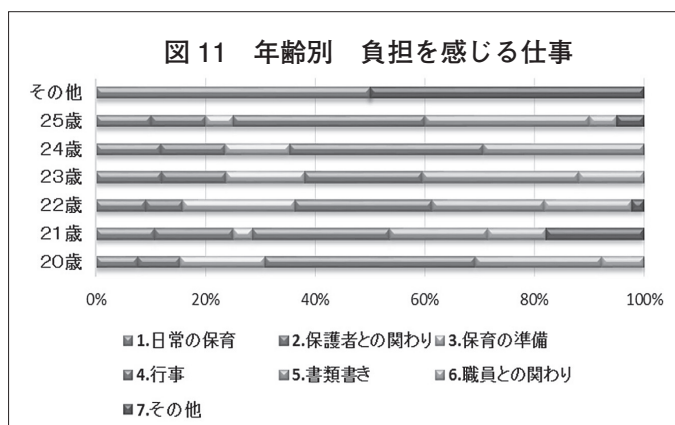
○仕事への負担感



仕事の負担感については、「少しある」が38%、「ある」が19%、「非常にある」が20%であり、若年保育者の約8割が仕事に負担感があると回答している。年齢によって負担感がどのように変化しているかを表したのが図9である。就職1～2年目の新人保育者より、就職3年目以降の保育者の負担感が大きいことが分かる。この頃から任される仕事の量や質も変わってくると考えられる。

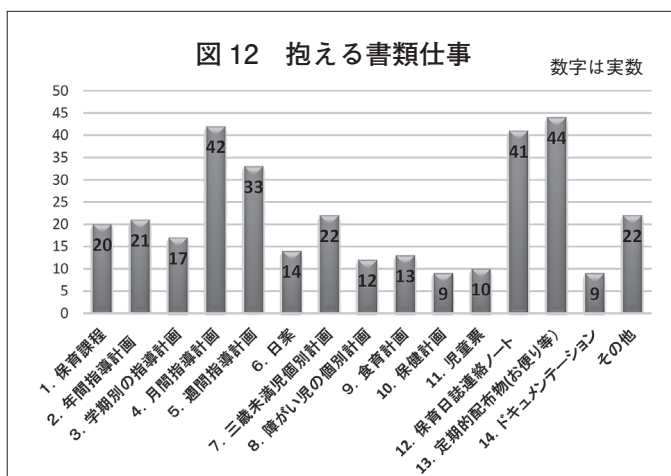
○負担を感じる仕事内容





負担を感じる仕事は、「行事」が最も多く 31%、次に「書類書き」が 28%、「保護者との関わり」「職員との関わり」「日々の保育」は同割合で 12%であった。年齢別に見ると（図 11）、「行事」や「書類書き」は、どの年齢でも負担に感じる仕事としてグラフは長く伸びているが、「職員との関わり」「日々の保育」については、年齢を経るほどグラフが短く負担が軽くなっている。新人保育者が職員と良好な関係を築きながら、実践を積み重ねることができる職場環境が、就労継続に繋がるのではないだろうか。

○書類仕事



2017 年に行った調査では、保育者の就労状況について思うことを自由記述で尋ねた。その結果、「書類書きが多すぎる」「書類を書くことで精一杯、時に持ち帰りをしている」等の意見が多く出された。そこで、今回の調査では、若年保育者がどのような書類書き仕事を抱えているのかを尋ねる設問を設けた。結果が図 12 である。多いものから上位をあげると、「お便り等の定期的配布物」が最も多く 44 件、次に「月間指導計画」で 42 件、「保

育日誌連絡ノート」が 41 件、「週間指導計画」が 33 件、「三歳未満児個別計画」が 22 件となった。

その他としては、以下があがった。（ ）は件数。

- ・経過記録（4） ・出勤簿 ・ブログ ・個別計画 ・緊急連絡網 ・会議録
- ・給食運営 ・避難訓練計画 ・出張報告書 ・各月反省 ・療育（保健士との連携）
- ・健診書類 ・要録 ・行事ごとの反省、レポート ・個人ノート

保育者は、質問紙の選択肢にあった項目以外にも各種の書類書き仕事を抱えていることが分かる。その大半が計画と評価（振り返り）に関する書類である。

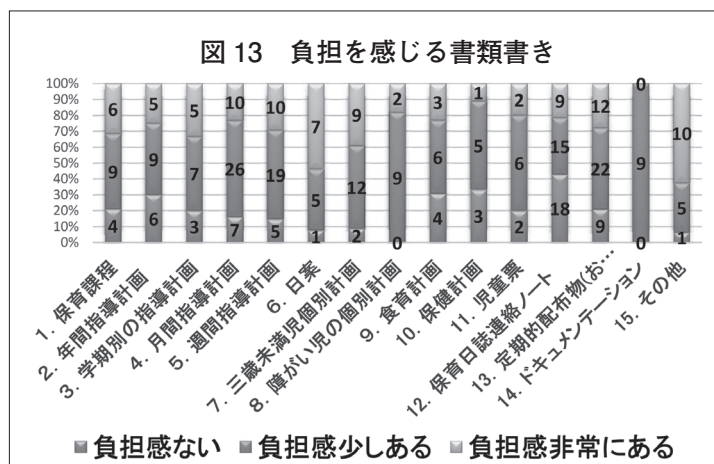
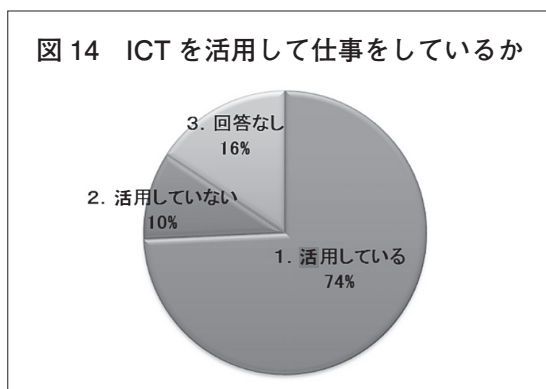


図 12 で出された書類書き仕事の負担感を調べた結果が図 13 である。全項目に渡って「負担感がある（少しある・非常にある）」の割合が高く「負担感はない」の割合は低い。幼児教育・保育は子どもの育ちを理解することから始まり、計画、準備、実践、評価と循環する。この過程は教育の要であり、困難を感じながらもそれらの仕事に取り組むことは、子育ての専門職である保育者（幼稚園教諭・保育士）の責務である。しかしながら、大切なのは、困難を感じつつも、仕事に対する面白さや遣り甲斐を感じられているかであろう。困難を感じた時に一緒に悩み、考え、助言してくれる上司、先輩、同僚はいるか。時に外部の研修に出向き、子ども理解や保育実践力に繋がる知識や技術を習得できているか。そんな職場環境が困難を乗り越え仕事への遣り甲斐と継続に繋がる。また、困難の根源はどこにあるのか。書類書きを取り上げれば、勤務中に仕事をする時間が確保できないことに困難さがあるのか。また、保育の文書表現の有り方が分からないのか。あるいはまた、日々の保育で子どもが理解できないことにあるのか等問題の所在を明確し、その支援ができる労働環境を実現していくことが管理職の責務と考える。同時に、保育の質向上を目指す上で重要な書類が保育にうまく機能・活用されているのか検証することも必要と思われる。

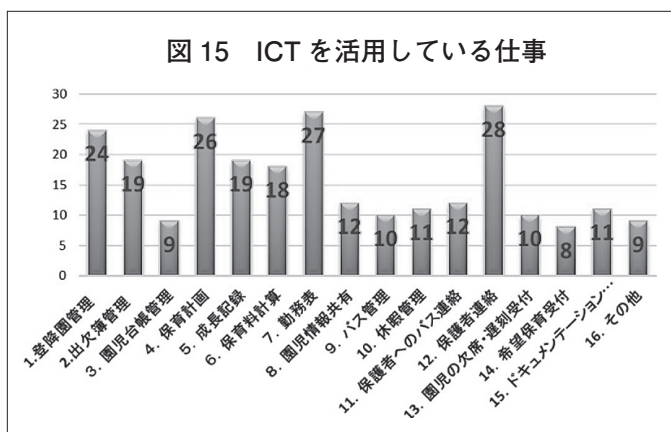
3. ICT の活用と仕事の効率化・軽減化

○ ICT 活用の有無



ICT を「パソコンやスマートフォン等を含めた様々な情報処理技術」と質問紙に説明書きをした上で、「職場で ICT を活用して仕事をしているか」と尋ねた結果である。「活用している」が74%、「活用していない」が10%、「回答なし」が16%であった。筆者の予想に反して「活用していない」や「回答なし」の割合が高かった。各園にパソコン等の ICT 機器は設置されていても、その台数の問題や勤務内に ICT を活用した仕事時間を確保できない等の理由からこのような結果になったのではないだろうか。

○ ICT を活用している仕事



ICT を活用している仕事の上位（図 15）は、「保護者連絡」が最も多く 28 件、次に「職員の勤務表」が 27 件、「保育計画」が 26 件、「登降園管理」が 24 件であった。質問紙では 16 項目の選択肢を用意したが、これを大きく分類すると、①園児状況の把握・管理（選択肢：1,2,3,5,6,8,9）②保育計画（選択肢：4）③職員の勤務状況の把握・管理（選択肢：7,10）④保護者対応（選択肢：11,12,13,14,15）の 4 つに分類できる。国では、保育所等に

おける ICT 化を推進しており、その導入費用の一部を助成する制度を設けているが、その対象として、保育業務支援システムは以下の機能を必ず搭載していなければならないとしている（「保育所等における業務効率化推進事業の実施について」厚生労働省）。

ア. 他の機能と連動した園児台帳の作成・管理機能

※園児台帳には、氏名・住所等の基本情報のほか、家族の連絡先、メールアドレス、身体測定、出生時記録、成長記録、既往症、かかりつけ医師、生活記録、健診と予防など、様々な情報管理が可能となっていること。

イ. 園児台帳と連動した指導計画の作成機能

ウ. 園児台帳や指導計画と連動した保育日誌の作成機能

* 保育業務支援システムに搭載する機能は、単に業務の簡略化を図るだけのものではなく、保育士や保護者等にとって、必要な情報等が具体的に把握できる仕組みとなっているなど、保育の質の向上にも配慮されているものでなければならない。

以上のように国が ICT 化の費用助成対象を定めていることもあってか、本調査結果においても職員の勤務状況や園児の出欠管理等に限らず、保育内容の検討や保護者支援に関わる内容を含め多業務に渡って ICT が活用されていることが読み取れた。国の保育所等における ICT 推進を背景に、企業による保育 ICT ソフトの開発と高度化が進む中で、今後さらに保育の多様な業務に ICT が取り入れられると推測される。

○ ICT 活用と仕事の効率化・軽減化

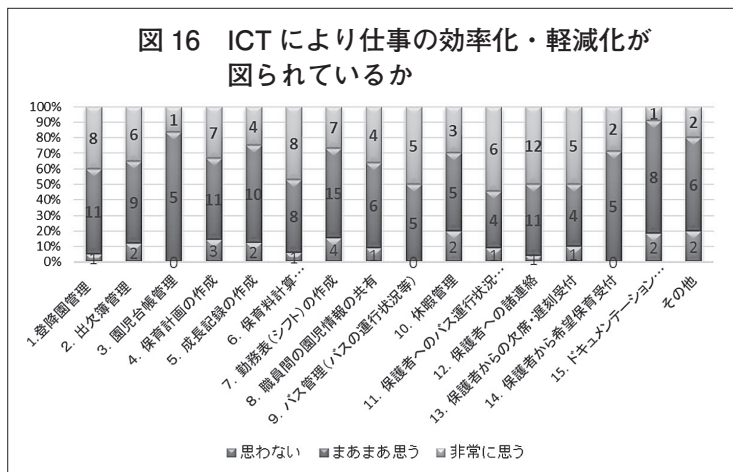


図 15 の「ICT を活用している仕事」について、ICT を活用することで仕事の効率化・軽減化が図られていると思うか尋ねた結果が図 16 である。「思わない」の割合は全項目に渡って低く、保育における ICT 活用を肯定的に捉え、仕事の効率化・軽減化に繋がって

いると考えている若年保育者が多く存在することが分かる。この後に示す自由記述回答には「上の先生の考えが古く“私はこうしていた”を押し付けられICT化や効率化が図れなかった。女性の多い職場では上が変わらないと下は何も言えないので変わらないと思う。」という意見が出されたように、保育のICT化には賛否が並存する。それは、世代間の相違が大きいと推測されるが、ICTを何に、どの様に、どの程度導入するのか。園で議論されることがよりよい職場環境と保育の実現に繋がるだろう。

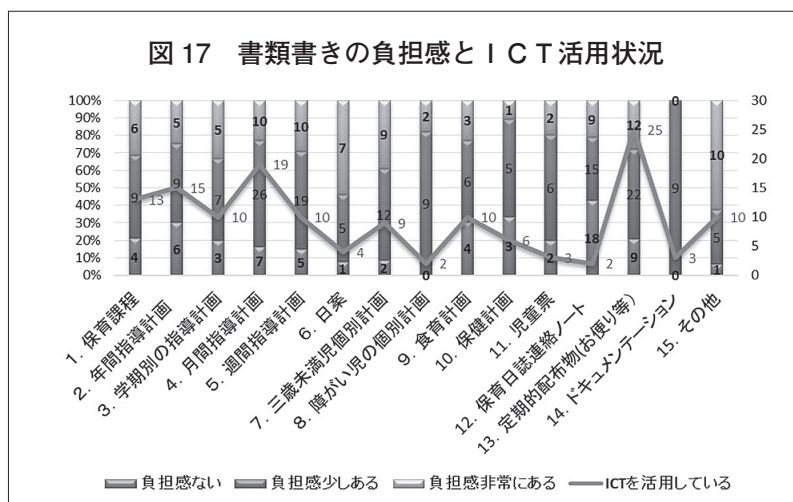


図 17 は、ICT 活用と書類書きの負担感の関係性を示したものであり、図 13 の負担を感じる書類書きに ICT の活用状況を加えたものである。データ数が少ないこともあり、ICT 活用と負担感の関係を論じるのは難しいが、傾向として捉えるなら、ICT を活用しているから負担感が低い又は ICT を活用していないから負担感が高い傾向にあるわけではない。ICT がうまく保育の仕事に機能しているかは、前述のように ICT を何に、どの様に、どの程度導入するかや ICT を扱う保育者によっても異なる。各園における ICT 活用の課題を含め、そのあり方を検証していく必要があるだろう。

4. 自由記述

○仕事の効率化、軽減化

「仕事の効率化や軽減化に向けてできることは何か」について自由記述で尋ねた結果、以下の意見が出された。

- ・ 時間外に早く行ったり、残業したりして仕事をするので業務時間内にこなせるように人事配置を考え直すこと。
- ・ 保育中のちょっとした時間を無駄にしない。できることを進めていく。そのために日

頃から先を考えて行動する。

- ・人材確保。
- ・不必要な仕事を減らす。玄関壁面など。
- ・自分の園ではブログを行っているが手紙を配布しているし写真販売もしている。子どもの様子が分かると思うので ICT を使っていてもブログをやっていることが無駄な仕事をしているなという感じ。登降園管理も全員で必要な子に対して行えばいいのになと思っている。自分の園ではこの2つをなくしたり減らせると思っています。
- ・月間指導計画案のデータ化。主任とデータ間でのやり取りができると良く、パソコンの持ち運び等が大変なため携帯で打ち込めるとよい。
- ・人手を増やす（事務の職員が一人もいない）
- ・指導計画案を月間か週間のどちらかにしたり、書き物をなるべく減らす。最低限の物だけでよい。必要な物だけにしたりあわせられるところはあわせたりしないと増えていくばかりだと思う。
- ・パソコンだと園内で台数が限られていて、仕事を進めたくても進められない。スマートフォンを活用することができればもっと仕事の効率が良くなるのではないかな。
- ・市の規程以上のことをしているため書類上の負担がとても大きい。園の方針が変わらない限りなにもできません。
- ・一人一台のパソコン導入。
- ・パソコンを使っても月案、週案、日案と書き物の多い職業です。そして文章力が必要になります。文章を考えるだけでも頭も体も疲れ果てるのです。その中のどれか1つで十分なはず。成長記録と案は1つにすること・・・と決めて欲しいです。
- ・書類の管理の仕事はICTを利用した方が効率的。保育要領を書く時ICTを利用した為、間違えても書き直しということがなかった。
- ・スマホで簡単に入力できると無駄な時間が減りプライベートな時間や保育の準備の時間に当てられる。
- ・監査等の書類を減らすこと。
- ・職員同士が協力し合ってみんなで仕事をする。効率化や軽減の面も考えて行っているため、今の所他に考えられません。
- ・勤務時間にも保育からぬけて書類や保育の準備、行事の準備をする時間が設けられるようにする。経過記録や指導計画の様式の簡略化をする。チェック項目にするなど。
- ・行事を減らす。又は簡略化する。
- ・残業しない範囲での仕事量の設定、手書き書類はできるだけ電子化することだと考える。保護者へ配布する書類もアプリを使って共有することでコピー紙の節約にも繋がる。
- ・職場の保育者を増やすことで仕事内容が軽減できると思う。

- ・職員をもっと増やし分担できる仕事は分担し個人の負担を減らすこと。
- ・複数担任の職員間での仕事分担。
- ・月週案や経過記録の ICT 化。
- ・以上児クラスのお帳面の有無。
- ・お給料を上げて職員を増やす。
- ・書類の各項目を本当に必要な部分だけのものにする。ほぼ必要なもののため難しいと思いますが。
- ・保育士として子どもと接するのは楽しかったのですが、それ以外の仕事や人間関係が給与に見合わない気がして辞めました。以下アンケートにもありますが、あまりにも負担が大きいと思う所が多く続けるのが難しいと思いました。
- ・上の先生の考えが古く「私はこうしていた」を押し付けられ ICT 化や効率化が図れませんでした。女性の多い職場では上が変わらないと下は何も言えないので変わらないと思います。
- ・勤務中に仕事をできる時間を作る。
- ・事務職を雇う。フリーの先生は必ず必要。
- ・十分な保育者の人数がいて可能な限り分担できるようになること。
- ・手書きでなくパソコンで行うこと。
- ・手書きをやめてパソコン入力。書く文字数を減らす。監査をなくす。連絡帳を動画にする。
- ・行事、昨年と同じであれば使えるものは使えばよい。
- ・仕事の重要度によって力を入れるものとそうでないものをしっかり把握し、取り組むための指示が欲しい。要録は小学校ではほとんど読まないと言いつつもすごく負担が大きい。
- ・データ化されていると過去の資料が閲覧しやすい。
- ・行事の簡素化。行事等の打ち合わせ、反省会が多々有る。反省会があるのに反省の紙を出さなければいけない手間。
- ・保育をする上でしっかり計画を立てることは大切なことなので、そこを省くことはできないが、デジタル化ができるものはデジタル化した方が効率もよくなるし負担も軽減できる。お便りのテンプレートがあるとよい。
- ・残業や持ち帰りがあまりないように延長保育時や空き時間に事務仕事ができるような環境を作ってもら。私の園は製作や壁面がないため準備する時間がなく事務をする時間に職員は当てています。
- ・パソコンで書類をするとところも多いですが、どの道パソコンの起動に時間がかかったり USB を読み込まなかったり他の職員と時間がかぶったりと思うようにできないこ

ともあるのでパソコンを利用して軽減されるのか・・・と思ってしまいます。

- ・ 休憩時間の確保。
- ・ 仕事時間内に職員同士連携し時間内に終わらせる。
- ・ 人員確保、バス乗車専任の人を雇う。
- ・ 放課後の仕事の時間を増やすために ICT を導入する。
- ・ 職員数を増やし、分担する。
- ・ 保育士（人員）の確保 時間の有効活用（書類を書く時間を勤務時間中に作る）。
- ・ 全て主担任負担なので資格があるのなら補助の先生と手分けして書類をやりたい。
- ・ 人不足のため、事務時間を削って保育にあたっているので職員体制をしっかりと整えることだと思います。
- ・ ICT をたくさん取り入れると軽減に繋がっていくと感じる。
- ・ クラス便りや個人記録はパソコンを利用したい。

以上の記述から、若年保育者の多くが ICT を積極的に取り入れた方がよいと考えていることが分かる。また、記述には ICT の可能性や有用性について具体的な意見が述べられている一方で、ICT の問題について言及しているものもある。保育仕事の効率化、軽減化は ITC 化だけでは解消しない多くの問題を抱えていることを指摘する意見も多い。

○学生時代の学習について

書き物仕事（書類）をする上で、学生時代に学んでよかったこと。学んでおきたかったことについて自由記述で尋ねた結果、以下の意見が出された。

- ・ お便りの書き方と連絡帳の書き方をもっと詳しく学びたかった。
- ・ 良かったことー経過記録を書くにあたって5領域を学べておいてよかった。学んでおきたかったことー連絡帳の書き方。
- ・ 特になし。
- ・ 日誌の書き方を学べたのは実習指導に役立った。指導案の書き方は実習に対する学ぶべきことで、仕事を始めて月案、週案、日案の事例をもっと学べたらよかった。
- ・ 経過記録は皆がするわけではないと思うが、たいていの人はすると思うのでもっと書き方やポイントみたいなことを学べたらと思いました。
- ・ 月間指導計画案の書き方。書き言葉や例など。連絡帳の書き方。
- ・ 書類をほめられ自信を持って仕事が出ています。先生方ありがとう。
- ・ 連絡帳を学べたのは良かったが、困った時の返事の仕方等、いろんな親へ対応する連絡帳の書き方を学びたかった。また、未満児の経過記録、以上児の週間、月間指導計

画を細かく学んでおけばよかった。

- ・クラス便りの作り方などパソコンの授業は技術がとても身に付いた。
- ・日誌は書いてて良かった。
- ・好きな本を読み、お互いにディスカッションすることがしたかったです。そんなゆとりもありますが、作った方がよいと思います。子どもにばかり話しける訳ではありません。大人としての語彙力も大事になってきます。考えを言葉にする力が必要な職業だと思つづくと思っています。障害児の授業がとても今役に立っています。教科書を引っ張り出して再び読み直す毎日です。中央短大の事務局、先生方は本当に素晴らしい方だったと思っています。
- ・障害児や配慮が必要な子の個別計画を学んでおきたかった。
- ・日誌の書き方を学べたこと。すごく良かった。お便りの作成はもっとしたかったです。
- ・連絡帳の書き方（保護者への手紙の書き方）、お便り、月案、経過記録をもう少し詳しく学びたかった。
- ・日案や週案の書き方はもっと学んでおきたかった。あと、今まだ書いてないのですが、担任になったときにお便りが書けるかとても不安。なので、園によって様々だと思うが基本的なものがあれば練習しておきたかった。
- ・パソコンの技術。ワード、エクセル、パワーポイント、タイピング。センスよくイラストとカラーの入った可愛いお便りのつくり方。ためらわずに毎月計画的に書類を書くことの大切さ。
- ・実際の週案の書き方の見本をもっとたくさん見たかった。経過記録の書き方を詳しく教えて欲しかった。
- ・保育指針の内容をよく学んでおくことで、指導計画のねらいや内容のところがとても書きやすい。
- ・今の職場は殆どパソコンの中に入っているソフトで行っているため書類で苦になることはありませんが、個人発達記録や保育計画の書き方をもっと知りたかったです。
- ・園児指導要録のポイントと書き方。
- ・保育用語（排泄や午睡）。
- ・エクセル・ワードの使い方をしっかり学んでおくといよい。
- ・乳児の個別計画は書き方を学んだものの、実際に書くと難しいので子どもの例があつて細かく書く練習があると役立ちそうだと感じた。幼児は難しいので、こんなものを書くといよいと見本だけでもあると良いかと思います。
- ・障害児の個別計画についてよく学びたかったです。
- ・指導計画案の書き方をしっかり教えてもらったので役立っています。
- ・子どもの姿に対する文章の表現方法。

- ・実習中の日誌は大変だったけどよかったと思う。色々なことへ活かせる。
- ・文法を学んでおいたのはよかったと思います。連絡帳を書くときに役に立っています。基本的なことですが漢字を復習しておくべきだと思います。PC での仕事が多いため今書けなくなって困る事が度々あります。
- ・経過記録の書き方をもっと具体的に実務に繋がるよう学びたかった。連絡帳や指導計画案（日案）を学んでいたことですぐに仕事へ生かした。
- ・書類の行う意味、意義を学ぶ。書くときのポイント。書類本当につらいです。週末はつぶれています（12月）。
- ・お便り帳の書き方を教えてもらいたかったこと。（画像を見て何を書きますかなど）
- ・ちょっと独特の園なので、被るところがあまりなくすみません。学生時代に学んだことも大切ですが、勤務する園によって色があるのでそれに馴染みながら個性を出していくが必要だと思います。しかし、すごく楽しい学生生活が今の私の基盤になっています。
- ・日々の保護者との連絡帳の書き方。国語、語彙力。
- ・日誌をたくさん書く経験をしたのでペンだこの痛みに強くなった。手首を傷めず済んでいる。
- ・1歳児の経過記録の書き方は授業で学んでいた為、仕事でもらった時に心構えができた。連絡ノートを書く時のタブーや文を短くまとめて書くコツなど詳しく学んでおきたかった。
- ・書類には「お」を書かないなど書類上の書き方を教えていただけてよかったです。ありがとうございました。
- ・実習でたくさん書いた日誌に比べたら「このくらい大丈夫！」と思え心に余裕ができるのでやってよかったです。
- ・PC のエクセルを学びたかった。
- ・パソコンの授業、ワード、エクセルなど。表現活動。
- ・年間、月案、週案の指導計画の書き方をもっとくわしく学んでおきたかったと思った。
- ・年間指導計画の書き方をもっと学んでおきたかった。
- ・指導計画の書き方を学んでおいて良かった。
- ・連絡ノートの書き方、言葉遣い、保育用語など。
- ・指導計画案をもっと深く考えてしっかり学んでおけばよかった。
- ・障害児の対応、食育などもっと深く考えておけばよかった。
- ・文章力。
- ・連絡帳の書き方。
- ・お便りのイラストの入れ方などを学んでおいてよかった。

- ・ ノートの書き方、学生時代に学んでおいたおかげで働いて初めて褒められたことです。お便りの書き方（見やすさ子どもの姿など保護者に伝える時のポイント）をもう少し詳しく学べたらよかったかなと思いました。働き始めて中短で学べてよかったなと思うことが沢山ありました。ありがとうございます。
- ・ 実際の市の書式で見本が欲しかった。また、書き方、言葉の使い方など知っておくと苦労しないのでは。

学生時代に学んでよかったことでは、「日誌」（6）が最も多く、次に「指導計画案」「パソコン」（各3）、「連絡帳」「経過記録」「5領域・指針」（各2）であった。学んでおきたかったことは、「連絡帳」（8）が最も多く、次に「お便り」（6）、「月案」「週案」「経過記録」「保育書類の書き方・言葉使い」（各5）、個別指導計画（4）、「漢字・語彙等」（3）、「日案」「年間指導計画」（各2）であった。

連絡帳やお便りは、就職後すぐに新人保育者にも任される書類仕事と思われる。新人保育者がこらの書類書きに困らないよう養成校での基礎教育は重要と思われる。また、各園のルールに沿った書き方について、現場で研修の時間を設けることも必要だろう。

図18は「仕事の効率化や軽減化に向けてできることは何か」「書き物仕事（書類）をすすめる上で、学生時代に学んでよかったこと。学んでおきたかったこと」の自由記述から仕事の効率化や軽減化に向けてできることを整理したものである。

図 18 仕事の効率化や軽減化に向けてできること

自由記述回答（抜粋）

- ・テンプレートがあったり、書き直しが容易という点で、ICT 化は仕事の効率化・軽減化に繋がる。
- ・主任とデータで指導計画のやり取りができると良い。
- ・ICT 化により過去資料を閲覧できる。
- ・パソコンの台数が限られており仕事が進まない。
- ・携帯できる ICT 機器が必要。
- ・データと紙面両方の情報を求められ負担が多くなった。
- ・リアルタイムで情報を発信することを求められ大変になった。
- ・上司の考え方が変わらないと ICT 化は推進されない。
- ・職員数を増やし分担する。
- ・職員同士連携し時間内に終わらせる。
- ・経過記録や指導計画を簡略化する。チェック項目にするなど。
- ・書類を書く時間を勤務時間中に作る。
- ・行事等の打ち合わせ、反省会が多々ある。
- ・保育士として子どもと接するのは楽しかったが、それ以外の仕事や人間関係が給与に見合わない気がした。
- ・パソコンを使っても月案、週案、日案と書き物が多い。そして文章力が必要になる。
- ・経過記録の書き方をもっと具体的に実務に繋がるよう学びたかった。
- ・連絡ノートを書く時のタブーや文を短くまとめて書くコツなど詳しく学んでおきたかった。
- ・年間、月案、週案の指導計画の書き方をもっとくわしく学んでおきたかった。
- ・PC のエクセルを学びたかった。
- ・基本的なことだが、漢字を復習しておくべきだと思う。PC での仕事が多いため今書けなくなって困る事が度々ある。

仕事の効率化や軽減化に向けてできること

- ICT の導入
 - ・テンプレートに書き込み文書作成が容易である
 - ・書き直しが容易にできる
 - ・職員との保育内容の検討が円滑化される
 - ・過去資料から保育を学べる
- ICT 導入後の課題の検証と解消
 - ・ICT 機器の整備（台数・携帯性）
 - ・ICT 化による仕事量の増加
 - ・保育仕事の ICT 化に対する職員間の意見のすり合わせ
- ICT 化以外の課題の検証と解消
 - ・人材確保
 - ・職員同士の連携
 - ・職員体制の見直し
 - ・書類仕事の見直し・簡略化
 - ・勤務時間内における事務仕事時間の確保
 - ・行事の見直し
 - ・職場の良好な人間関係
 - ・給与の見直し
 - ・文章力の習得
- 保育者養成校や現場研修で求められること
 - ・保育記録のまとめ方
連絡帳、お便り、経過記録
 - ・指導計画の立て方・書き方
年間計画、月案、週案、日案
個別計画
 - ・ICT 活用のための基礎教育
 - ・国語表現の基本
漢字、文章の作成方法

Ⅲ. 聞き取り調査結果

(1) 調査の目的

研究課題1ではICTを活用して仕事をしているかという問いから若年保育者が抱える園の課題意識を明らかにし、変化する時代の中でどのような課題意識をもち、いかに対応しているかを自由記述をもとに確認した。次に、インタビュー調査をする中で、共通事項を見出すことにより、抽出した概念を分類し表に示す。インタビューの結果から園長の園運営の課題や、現在、園で働く若手保育者が感じているICT導入と保育事務への課題についてや悩みを明らかにする。

(2) 調査の内容

①対象者

- ・調査対象：質問紙調査の結果からICTを導入、または検討中で保育業務を行う4園の管理職および保育者に質問をする。

②調査方法

- ・半構造化インタビューを実施する。
- ・調査期間：2018年12月～2019年3月

③インタビュー内容

インタビューの質問項目は以下のインタビューガイドをもとに1人30分を目安に行う。

インタビューガイド

- ・園長先生
 - 1. 職歴
 - 2. 園の運営・経営で大切にしていることは何ですか
 - 3. ICTを活用して保育業務を実施しているメリット、デメリット
- ・若手職員
 - 1. 職歴・経験年数・資格
 - 2. ICTを活用して保育業務を実施しているメリット、デメリット

④聞き取り調査の研究手法

調査研究Iで明らかになったデーターをもとに、ICTを活用し、どのような仕事をしているかという問いについて園長先生の役割、考えについてインタビューを実施する。

その後、若年保育者にもインタビューを実施する。園長・若年保育者のインタビューからKJ-法に基づいて概念を抽出した。さらにこれらを検証するにあたりカテゴリーの一覧表を示し次に各園の特色について述べる。

Ⅳ. インタビュー調査結果

i) 事例 1

事例 1 A 園（私立認定こども園）

【園長職 A 先生】2019 年 2 月：園にてインタビュー実施

認定こども園への移行もあり、園経営の変化もあった。新しいことは導入していきたい。ICT 導入のメリットとして、感染症による子どもの欠席に関する把握ができる。この点については、全体の子どもの健康把握と情報共有、予防的視点からも活用できる。特に、保護者からの問い合わせがあった際、園の衛生管理について欠席状況を見ながら、他の園児の欠席動向を含め、数字で保護者に説明ができた点が良かった。

早期に家庭との連携を計り、園長とも対応策がとれる。健康状態をデータベース化し、健康を意識し環境を整える点は今後も継続したい。

【保育教諭二年目 E さん】

出欠管理システムは使いやすく延長保育のお迎えの時間等も把握しやすい。朝にシステム不具合が生じた時は不便さを感じた。就職してからこのシステムで慣れていたためシステムに頼らない手書きの情報把握についてわからないため不安である。ドキュメンテーションのデーター入力や行事前の準備など自身の課題があると感じている。

ii) 事例 2

事例 2 B 園（私立認定こども園）

【園長職 B 先生】2019 年 2 月：園にてインタビュー実施

園長として着任後、初めに感じたことは、風通しの良い園にしたいという思いであった。そこで、第一に情報の共有化であると考えた。人が辞めても記録が継がれ残るシステムを作りたい。子どもの記録が保存可能で次年度対策が考えられる体制を作りたいかった。

第二に仕事の合理化、効率化である。この保育業界は合理化が未だ着手されていないと感じていたため、時間の使い方に着目した。担任が記録の入力可能な時間確保し、可能な職員がお昼寝担当になるなど役割分担を見直した。その結果、紙が減り紙がばらつかなくなっている。文書を探す時間も減りすぐに会議に入ることができる。

ICT 活用で担当の入力時間が確保され、仕事を自宅に持ち帰らないというシステムを作った。特に、若い人材の ICT 活用力生かすチャンスがあり、商業高校卒業者は情報機器操作も早く、自身の特技を生かしている。

さらに、保育場面の共有のため保育室の録画の活用を試みている。保育者の導線、立ち位置の研修や人的環境の見直しを実施している。噛みつきやこどもの姿の検証から保育の質を検討している。一方デメリットもある。ICT 導入後も時間の使い方に無駄がある。年配者の情報機器操作苦手意識改善と新しいことを始める対応が必要であった、決められた時間内で打ち込み作業と文章作りをする力が必要となる。ICT 導入後、時間の使い方の改善と語彙力が必要であると感じる。

事例2 B園（私立認定こども園）

【保育教諭一年目Fさん】2019年2月：園にてインタビュー実施

I C T活用内容は、出欠管理、日誌、感染症状況、年間・月案等記録、保護者面談資料、保護者クレーム対応経過。活用メリットとして「一年目で就職当初からこのシステムでパソコンが一人一台あり、パソコンを開くとその日の欠席、職員配置、保育内容など情報共有が可能である。」先輩保育者は「以前は紙媒体で記録していたため書類がバラついたが現在は、情報が整理されている。」と述べていた。園のシステムとして、担任は入力業務の時間を頂き、他の職員と業務分担しているため持ち帰り仕事はない。個人面談の内容についても入力し、主任の先生から修正や面接後の内容も記録し職員で情報共有と子どもの育ちの支えを検討する活用をしていることである。先輩の保護者との言葉のやりとりや伝え方の工夫も文章化されており大変勉強になることと、面接後の子どもの課題をどう支援するかについても検討する流れが資料をもとに実行されている点は新人にはありがたい。

iii) 事例3

事例3 C園（私立保育園）

【園長職D先生】2019年3月：園にてインタビュー実施

I C Tを取り入れ約今年で10年になる。記録に関しては13年前から週案等入力、打ち込みに変更した、I C T化メリットは、紙が減ったこと。事務員が紙をもち連絡する手間が省け正確な情報が伝わる。さらに、報連相の内容が職員全員に見える化する。働き方が違ってても情報を共有できることが可能になった。現在、I C T化でブログ日誌【三感日誌】で子どもの今を配信できる。

保育記録については、0～1歳は担当が春夏秋冬と4期に分け記録する。保育記録個人カルテ、経過記録、指導要録の連動と五領域、10の姿の直結13年前からの入力経験を生かした保育所保育指針に対応したソフト開発が進み現在も最新のソフトで対応している。また、東北沖地震から新たな保護者連絡の対応リスクマネジメントが可能となった。デメリットとしては、パソコントラブル時対応、停電時対応、情報機器類トラブル時のアナログ対応はベテランが可能だが、若手はアナログ対応がわからないため緊急時のマニュアルや安全対策係をおきI C T担当の専門的人材の必要性を感じる。

欠席管理等の手書き未経験若手対応や子どもの姿を言語化する力も求められる。パソコン内伝言板の見忘れがあると伝達が不可となる。

事務室にてパソコン管理者としての管理職の必要性がシステムとして求められ保育現場に入ることが難しく、子どもの緊急対応時や日々の勤務体制職員配置の際の課題も残る。

事例 3 C 園（私立保育園）

【保育士（二年目）Hさん】2019 年 3 月：園にてインタビュー実施

パソコントラブル時に、自分はアナログ対応がわからないため手書き未経験でよくわからない。子どもの姿を言語化する力が弱く短時間に文章が考えられないときもある。ICT化でブログ日誌【三感日誌】は、基本的に自分が書いたものを事務室でチェックしてからの発信となるため、副園長先生が修正して発信してくれるため安心な反面、これで良いのかと思うこともあるが、業務が立込んでいる場合は特に上の確認がないと不安なため、一度管理職が目を通してくれることは有難いと思う。

iv) 事例 4

事例 4 D 園（私立認定こども園）

【園長職 D 先生】2019 年 3 月：園にてインタビュー実施

現在 ICT 導入はしていない。導入の説明は聞いているが、検討中である。
基本的な考えとして、全システム導入となると予算のことと、ICT 導入における ICT 管理者を置く人員の余裕がない。

事務など会計ソフトは入れているが、園管理システムの ICT 導入となると高額であることと人員のことが未導入の一番の理由である。ICT 化よりも園児の保育環境に予算を考えている。

事例 4 D 園（私立認定こども園）

【保育教諭 新卒 1 年目 G さん】2019 年 3 月：園にてインタビュー実施

勤務し、初めてのことばかりで保育のこと園に慣れるのに精いっぱいである。
現在出欠など手書きで、伝達もTELで保護者からあり事務からメモで伝達である。
自身は、パソコンよりもスマホが得意であるため、園管理のスマホアプリでこどもの記録の工夫が将来的にできたらと考えるが情報を安全に管理する力も必要だと思う。

V. インタビュー調査結果まとめ

以上のインタビュー調査からキーワードを抽出し層別を試みた。

図 19 保育のICT化に関するインタビュー調査結果

A 園	園児の健康状態のデータベース化	感染症発症率の理解・共有
		子どもの健康の見える化
		健康面の対応への早期提案
	環境管理のデータベース化	保護者の疑問に答える
		園の課題・保護者の課題への対応策提案が可能である
		年齢・クラスごとの健康説明ができる
B 園	仕事の合理化	風通しの良い園にしたい
		情報の共有化が必要
		人が辞めても記録が残る
		子どもの記録を次の年に生かす
		子どもの発達を考えた対応策を全員で共有する
	仕事の効率化の推進	担任が記録を書く（入力する）時間を作る
		仕事を自宅に持ち帰らない
		時間の使い方の工夫する
	保育記録の共有化データベース化	紙がばらつかない
		書類探しの時間が減る
		印刷・保管・紛失の減少
	保育場面の共有化	保育録画による嘔みつき・喧嘩の保育の質検証
		人の導線・人的環境見直し
		人的環境の見直し
C 園	園児の出欠データベース化	保護者への説明への有効活用
		園児の出席・欠席・早退・遅刻がわかる
		紙の書類・メモが減った
		人の出入りで書類が紛失しない
		時間が正確で危機管理対策ができる
	保育内容の情報共有化	時間が正確で危機管理ができる
		職員が多いが一斉に伝達ができる
		働き方が多様だが、情報の共有ができる
	伝達の電子化	伝言板を読むと一日の流れがわかる
		朝の電話が減少した
		保護者からの伝達の漏れがない
	リスクマネジメントの提案・推進	連絡ミス、取次遅れがない
		緊急時の一斉連絡可能
		リスクマネジメントの検証と対策が可能
		保護者の緊急時予測マニュアルの管理
D 園	ICT化の検討	災害時の情報発信と受信ができる
		書類の統一
		進捗状況の把握
		担当者同士の情報共有
		人手不足で情報管理要員がいない
		ソフトが高額で予算不足のため踏み切れない
		ICT化よりも保育環境に予算を考えている

今回の調査は、数少ないインタビュー調査結果であるが、様々な要因で ICT を導入している、していない園があった。特に印象的であった理由は、園の管理職が、働き方改革の一環として ICT 導入を実施している点である。長年導入している園は東北沖地震の経験から、ICT の業務に関するリスクマネジメントができた。先行保育研究調査にもあったが、行政と連携し、子どもの健康調査として ICT を導入に役立てている園もある。

導入に関するメリット、デメリットがあるがパソコン管理者としての人員配置も必要であり、専門性ももためられている。

インタビュー調査考察

ICT の業務に関するインタビュー調査から、特に早期からこのシステムに着目し、ICT 導入を実施している園と認定こども園に移行するタイミングで ICT の業務に関する補助金を利用して進めている園等、実施園には決定の時期の理由があった。

また、保育の質と人材確保という視点で、働き方の見直しの一環として、ICT の業務導入を実施している園もあった。情報共有の方法をメモやノートから一斉送信し、事務室から人は動かず、出勤時間に差があっても伝達ができる工夫がみられた。

伝達手段としての携帯電話を保育中を身に付けている園もあった。

今回のインタビュー後に、ある卒業生からのメッセージでは、「今まで写真係りで、園の行事の度に注文、焼き増しと大変な思いをしていたが、現在はアプリ導入で写真係りの仕事の負担がなくなり業務が楽になった。」と話す卒業生がいた。

つまり、上司の ICT の業務に関する情報量と専門性、導入することを決断する金銭的余裕、先見の目も必要であるという。

今後、保育士不足、人材確保がどのようになるか先が見えない不安もある。ICT 導入と業務効率化も保育現場の人手不足解決と保育の質向上において解決の糸口の一つの鍵となる可能性も考えられよう。

Ⅵ. まとめ

今回実施した質問紙調査の回収率は非常に低く、今後同様の調査を行う際の課題となった。しかし、調査を通して、若年保育者の仕事の負担感と ICT 活用の可能性を傾向として捉えることができたと考えている。

保育現場では多業務において ICT が活用され仕事の効率化や軽減化に効果をもたらしている。しかしながら、経費の問題や各園の管理職等の考え方により、ICT の導入状況には格差が生じており、今後その差は広がると考えられる。今回の調査では保育の ICT 化により、保育や子どもの状況が可視化され、それぞれの情報が繋がり、よりよい保育に繋がり循環していくということも読み取れたが、そのような保育における ICT の可能性

を踏まえれば、ICT 化の格差は保育の質格差に繋がると考えることができるだろう。各市町村では、平成 28 年から保育所等における ICT 化の安定的で計画的な整備を推進し補助金制度を設けている。この機会を捉え、各園の管理職は前向きに ICT 化を検討することも必要である。また、保育の ICT 化については、保育者の ICT 経験や世代間による賛否が存在する中で、保育における ICT のあり方を職員間で多面的に話し合うことも重要だろう。

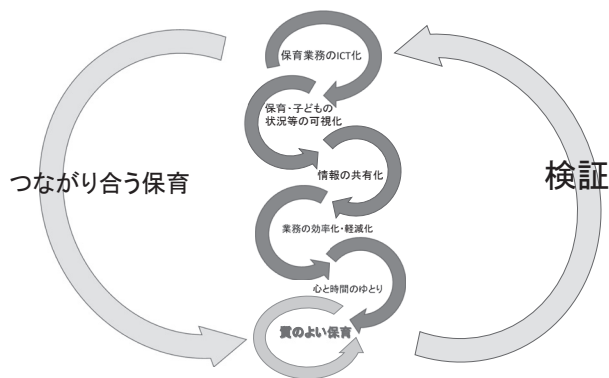
就職後卒業生が困らないように養成校に求められることは、これまで同様、教育・保育の基礎をしっかりと

と習得させる教育を継続しつつも、現場の ICT 化に対応でき得る ICT 教育と、現場で活かせる書き物仕事の更なる授業充実にあると言える。

今回の調査から園の管理職が働き方改革の一環として ICT 導入を実施している園もあった。調査対象園は少なかったが ICT を導入し保育業務を行う 3 園は、その目的と効果に保育の質向上を目指し、多様な勤務形態の中で情報共有のねらいがあった。ICT の活用で文章化された保護者対応・面接の記録など目に見えない保育技術を後輩に伝えるツールとして職人芸的な関わり方を文字化し「見える化」するプロセスとして ICT が活用されていた事実もあった。

今後はベテラン保育者層の仕事の取り組みについても調査を実施したいと考えている。

図 20 ICT の可能性



参考文献

- i 小川崇・久保田真規子・永井裕紀子『保育者の実態はどうなっているのか—新潟中央短期大学卒業生を対象に一』暁星論叢 69号, 2018(2)聞き取り調査結果
- ii 経済産業省「保育現場の ICT 化・自治体手続等標準化検討会報告書」2018 (<https://www.meti.go.jp/press/2017/03/20180330003/20180330003.html>)
- iii 菅原民枝・大日康史「保育園サーバランスの市町村導入マニュアルの作成と保育所感染症対策への活用と普及啓発の研究」2014年度『保育学研究』第 5 巻
- iv 池本美香「ニュージーランドの保育における ICT の活用とわが国への示唆」2017 JRIレビュー Vol.6,No.45(<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/9942.pdf>)
- v 日本保育協会「保育士における業務の負担軽減に関する調査研究報告書」2014
- vi 厚生労働省「保育所等における業務効率化推進事業の実施について」2016